

「あさひ 楽々教養講座」開講！ ～あさひぐらしを楽しむための学びの場の提供～

浜田市公民館連絡協議会旭自治区会
(旭自治区5公民館連合会)

1 旭自治区5公民館の概要

旭自治区は、島根県の中央部よりやや西南寄りに位置し東西13km、南北15kmで南北方向の楕円形を成しており、南を広島県境に接している。そして楕円形を取り巻く形で5つの地区が接しており、それぞれの地区に公民館がある。

平成20年10月の島根あさひ社会復帰促進センター（矯正施設）の開所による新たな若い住民の転入、元からの住民の高齢化による荒地の増加など、5公民館をとりまく自治区内情勢が大きくかわる中、それぞれの地域の核となり5館が互いに協力・連携しながら地区の活性化を考えた活動を展開している。

2 事業の概要

(1) はじめに

① 実証事業名 「あさひ 楽々教養講座」開講！
～あさひぐらしを楽しむための学びの場の提供～

② 実証事業のテーマ

「知る楽しみ・伝える楽しみ」

楽しみながらあさひで暮らす→地域への誇りや愛着は、地域を知ることから。
見どころを含めた地域の「よさ」や「魅力」を、転入者にも、次世代にも伝えたい。

③ 実証事業のねらい

進む少子高齢化の影響で学校統合による廃校や保育所閉所、さらに諸機関の支所撤退など、地域の拠点として従来から住民に親しまれていたモノや、営々と引き継がれてきたコトがひとつずつ消える地区がある一方で、新たな転入者を迎え、地域住民との交流の場が必要になる地区も出てきた。

また、公民館活動においても、単発的で趣味的要素の強い内容のものから、継続的に学び、教養を身につけていく教育性の高い内容へのシフト替えが求められるようになった。



そこで、自治区内公民館活動を“集う”“伝える”“学ぶ”“発信する”を軸に、地域住民の異世代交流を図ることで、ふるさとへの愛情を醸す契機に繋げると同時に、高齢者の生きがい創生、新しい居住者と交流のきっかけづくりとして、次のことをねらいとした。

「第1講 吉岡正敏さんから南北朝時代の話聞く」

- ア 地域で忘れられ埋もれた先人・言伝え・歴史・行事の掘り起こし。
イ 高齢者の方の記憶や知識を語り伝えて貰うとともに発表の場を提供。
ウ 「郷土の誇り・見どころ（仮称）」をDVDや冊子にして各公民館や自治区内小中学校へ配布。

（２） 具体的な取組

① ５地区のみどころ巡りとして展開

地元旭に興味を持つ人をふやす事を気軽に幅広い年代の方の参加を得る事を考え、５館地区それぞれのみどころを巡る現地学習を企画した。

現地では「石見郷土研究懇話会」の地元会員がガイド役を務めた。

様々な“いわれ”“郷土の偉人”“知られざる歴史”なども紹介してもらい極めて深い学習講座となった。

② 講座を前期・後期と大別して実施

旭自治区５公民館主催の講座として五つの地区で開催し、前期を第１講から第５講、後期も同様とする２期制とした。そして各期に特別講座１講も設けた。

前期・後期それぞれの講座において、全講座出席の受講生には『皆勤賞』を最終講座で授与した。

知って楽しむ旭の魅力

前期講座は、６月から８月開催の全５講と特別講座を計画。
「知って楽しむ旭の魅力」をサブテーマに掲げ、５館各地域の歴史や見どころについて現地見学を中心に学んだ。



「第２講 都川の歴史について学ぶ参加者」



「皆勤賞の受講生から感想を聞く」



前期第５講 和田「やつおもて古墳」



前期第２講 都川「京の山」



前期第1講 今市「参勤交代今市本陣」



前期第3講 木田小学校「作法室」

写真で楽しむ旭の魅力

後期講座は、10月から3月開催の全5講とし「写真で楽しむ旭の魅力」をサブテーマに、前期講座で巡った5館各地区の現地撮影をした。

第1講は特別講座として「絆を撮る」をテーマに外部特別講師（フォトジャーナリスト）を招いた。

現地撮影では、地元写真同好会の会員が撮影講師となり、棚田や町屋が残る町並など自由撮影しながら、デジタルカメラでの基本的な撮影術を学んだ。



後期第4講 「家族を撮る」
家族の写真を持ち寄って座談会形式で開講

後期第3講 「街並を撮る」



3 事業の成果と課題

この事業を実施した成果は次の通りである。

第一は、住民が地域に関心をよせる良い機会となった。

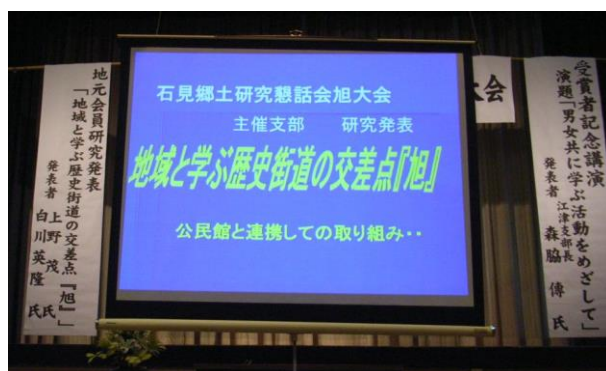
第二は、公民館事業としての効果を実感できた。知っているようで案外知らない地域の様々な事象を知ってもらうよい機会になったと同時に、見どころ巡りという企画にした事で、親子での参加や高齢者の参加も多かった。

「地域を知る」という要素を取り入れたことで、地域に対する住民の「自慢・自信」を次世代につなぐという事にも手ごたえを感じたが、今後継続していくにあたって、講座の内容・時期・回数なども検討する必要があると考える。

第三は、この事業を通して、各公民館間・他組織・団体との連携・関係が深まったことである。旭自治区内の5公民館が一つの事業に取り組むことでよりいっそう絆が深まったと思う。

第四に「地域を知る」活動が5館それぞれの地区で、形を変えて広がる兆しが見えてきたことである。地区の歴史をポイントに散りばめたウォーキング開催、地区名のいわれや謎をひもとく地元住民による講演会、恒例の地域のイベントで、歌碑石碑の探究発表を地元住民が行うなど、既に3地区にひろがっている。

また、9月には旭温泉施設で広島県の50名近くの団体客からの依頼で「旭の歴史」を紹介した。



「郷土石見旭大会で研究発表」

前期第4講 市木「相撲頭取 飛梅の生家」



「ふるさと探訪ウォーキング」マップ

4 今後の方向性

県外に在住している郷土の方たちに今回の事業により、まとめた資料をふるさと旭の情報の一部として発信を考えている。地域には、まだまだ「埋もれている」「風前のともしびとなりつつある」「忘れられている」事象が、多様な分野にわたり存在すると思われる。この事業を契機として、さらに掘り起こしていきたい。そして、それらを地域力醸成に生かす取り組みも、今後の課題としたい。

事業を振り返ると、キーワードである『楽しむ』が、広く参加を募るのに効果的であった。このことから、講師も受講生もともに魅力を感じ、満足を感じる活動は、参加者のみでなく企画・運営する側の意欲向上にもつながった。

「知る・伝える」楽しみを体感できる取組として今後も盛り上げていきたい。